

久 久 比 奴 末

は ま ゆ う と 桜 貝 と

海 光 る わ が 故 里

第 5 2 号

1 9 9 0 年 3 月 1 3 日

新年懇親会

田中まさ子

鵜生園物語

吉田 興一

あゝ 昭和

遠藤 隆二

鵜沼を語る会

「鶴沼を語る会」新年懇親会

田中まさ子

語る会の新年懇親会は平成2年1月9日にあたりました。当日会員の方々に風邪を引かれたようで集りが少なかったことは残念でした。

さて、お目出度うがすみまして、長い間の願望であった「仮称南部老人福祉センター」の建設がやっときまり場所は鶴沼海岸6丁目17番で「開所を3年7月を目標に工事をされるとのこと、誠に老人にとっては有難いことです。

老人の健康維持、増進を図り世代間の交流を目的としたふれあいの場所、この施設にはデイ・サービス（日帰り通所サービス施設）併設され、従来利用することが困難であった虚弱な老人も含めて、使える施設出来る。

その建てられる敷地面積2685・43 平方m。

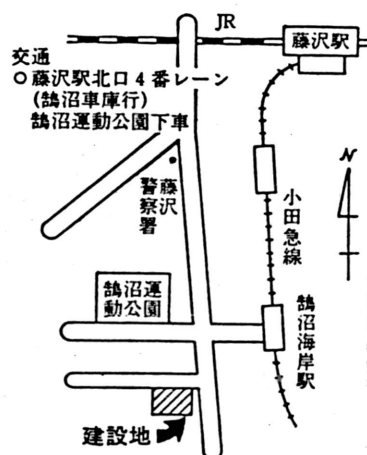
建築面積1329・62 平方m。延床面積3149・12

構造 鉄筋コンクリート、1部鉄骨鉄筋コンクリート造。地下1階地上2階。特殊設備床暖房（多目的ホール）。非常通報（ナースコール、テレビ監視システム）。

主な施設内容 地階は健康促進フロア。一般的な浴室と健康の維持、増進、機能回復訓練にも役立つ運動浴室。入浴後のひとやすみ、くつろぎと交流のできるリラックスコーナーなどが設けられています。

1階はデイ・サービス・各種相談フロア。年金、就労、生活等の各種相談コーナー、喫茶室、多目的ホール、地域の夜間開放学習室、会議室。

案 内 図



2階は学習・文化レクリエーションフロア。多目的大広間（3室に小割りも可能）、個人・小グループで利用できる和室、絵画、彫刻等に見えるアトリエなどが設けられている。屋上にはゲートボール場も計画しています。「市役所の老人生がい課」の係りの方が懇切に説明して下さいました、本当に有難う御座居ました。

建物が立派出来上がり特に在宅福祉、デイ・サービスを加えて下さるとは結構なことです。日本は、他の国より社会保障、保険、医療、年金等すぐれて行き届いていると云われています、有難いことです。

先日アメリカのシカゴへ行かれ、イリノイ州にある福祉施設を見学されて来た方にお話とビデオを見せて戴いた、その施設が老人ホームとは思えない暖かいもので、家庭にいるままというのに驚き又うらやましいと思いました。私はその施設が国費で賄われているのですかと聞きましたら、個人の費用と聞いて又びっくりしました。アメリカでは金持ちの老人でなければは入れません。

日本でもお金さえ出せば企業として成り立っている処もあると聞いていますが、市で建てて下さるセンターの一番よいと思った点は、この中に食堂、浴室、学習室等が若い世代の方達と共に使えるということです。老人も出来ることは自分でして行きたいのです、与えられた物ならなんでもというのでは早くボケが来ます、手足と同じに頭も使うことが大切なことです。

それでも、いずれボケますが、さけては通れない「老」というものでせう。老人のお世話をして下さい医療にたずさわる方々、毎日本当にご苦労なことです老人は寂しがりやです、住み慣れた土地で子供や孫と暮

らしていただきたいのです。在宅福祉は多くの老人が望んでいます。

平成2年どうかよい年でありますように祈ります。

おわり



(仮称) 南部老人福祉センター完成模型

鵠生園物語

吉 田 興 一

社会福祉法人・・・ケア・センター・ナーシングホーム鵠生園は、平成元年の8月5日に十五周年記念の祝賀会を行いました。振り返えつてみると、鵠生園の誕生は昭和49年8月で、当時は、定員50床のこじんまりとした特別養護老人ホームだったのです。鵠生園の理事長は上村安一郎さんですが、ここで、ちょっと鵠生園にまつわる因縁のようなものについて、郷土史的にふれてみます。鵠沼の存在が世の中に知られるようになった明治の末頃、中屋という旅館がありました。この旅館は、鵠沼の古い旅館として、色々な話題を残した旅館で、たとえば、昭和の始め頃、私も読んだことのある当時の流行作家、吉屋信子が逗留して小説を執筆していたことなどはその代表的なものです。ここの経営者は田中安さんといいましたが、ご本人はおもに東京の四ッ谷に住んでいて、奥さんの兼（かね）さんが殆ど旅館の切り盛りをしていました。ここの土地は、田中安さんが番頭の三浦義太郎さんとあちこち土地を買い結局、鵠沼の5分の1くらいの土地を買った中の一部だといわれています。その田中安さんの子供は5人あり、長男は耕太郎といい、中屋のあとを継いだが、すでに亡くなっています。その下が養子に出た石黒さんで次が上村先生のお父さん、この方も若くして肺結核で亡くなり、上村先生は兼さんに育てられました。次は娘さんで水野という人と結婚し、この水野さんが田中安さんの養子になり、今の鵠生園の所も貰ったそうです。そして、この水野さんの娘さんと上村安一郎さんが従兄妹同士で結婚をなさったのである。。末弟が横瀬寛さんといい大変な事業家で、田園調布に住まいがあつた。かなり手広くあちこちにガソリンスタンドを経営していて、鵠沼では鵠南小の近くの田安スタンドから川っぶちまでの土地も持っていた。このガソリンスタンドも彼の所有で、田安とは田中安さんの「田」と安さんの「安」を取って田安ガソリンスタンドと名付けたのである。さて、上村さんは、奥さんと従兄妹同士なので、子供さんをつくらず家庭はお二人だけである。鵠生園を経営なさるようになったのは、上村さんが慈恵会医科大学出身で精神科を専攻なさっていたことにもよる。その前には、昭和30年7月に横浜

で精神病院院長に就任なさっていたが、戦後、三浦幹さんが相談をうけたりして、今の鵠生園のある土地に別荘を建てることになった。もともと精神科医で心の病いを治すのが専門なので老人福祉に関心があり、ついには、ぼけ症状の対策に医療施設を建てようということになり、48年頃に庭木を伐採しはじめ、その別荘が特別養護老人ホーム鵠生園として誕生することになる。最初に述べたとおり、翌、49年7月の暑い日に、落成式が行なわれ、8月から事業開始となった。たまたま、高齢者の福祉の第一段階として、当時老人ホームの建設が必要に迫られていた時期であつた。しかしながら、現実にはその不足が痛感されていたにすぎず、厚生省に老人保健課が、県にも民生部（現福祉部）に老人福祉課が設置されて、いよいよ着手しようとしていた矢先であつた。上村先生の意向がはつきりするにつれ、県でも大乗り気で、福祉課あげてバックアップし、とんとん拍子で特別養護老人ホーム鵠生園が実現したのである。工事は藤鵠建設（株）、設計は手塚設計事務所が担当し、法人設立、補助金申請等も順調に進み、ただ、完成に至るまでオイル・ショックの関係で4カ月ほど遅れたが、首尾よく8月下旬から経営を開始することが出来たのである。また、鵠生園という名称だけでは暗いイメージが伴いかねないので、それを払拭する意味もあつて、「精神的・身体的に障害のある高齢者やその家族のための施設」という「ナーシングホーム」という名称をつけることになった。その後どんどん発展し、現在214人のお年寄りがここに生活しておいでになります。ただ、昭和49年に鵠生園が開園する前には、昭和39年に精神障害者のための湘南精神クリニックを開設したことがあつたが、いったん閉鎖し、9年後の48年に現在の管理棟を県や県社協の要請により、障害老人のナーシングホームということで、発足はしていたのです。

・・・その後の経過の主なもの・・・

昭和54年に、市の委託事業として、デイ施設をはじめることとなつた。月曜日から土曜日までの週1・2回、老人の介護で疲れ切っている家族にかわつて面倒をみてあげるサービスを行うのである。

開園当初から”痴呆性老人”は入所してはいたが、昭和61年から湘南ブロックの痴呆性老人の専用ホームとして、定員50床のうち30床を専用棟とした。増改築したことにもよるが、居室もロビーも広くなつたので、その分を7床のショートスライ用（短期入所用

）ベッドにして大いに活用されている。

たまたま、昭和62年3月、県のケアセンター構想に応じて、市では一人住まいの高齢者や、老夫婦だけの方々を対象とした緊急通報システム事業及び入浴サービス等を強化する計画をたて、これが鵠生園に委託された。従前のサービス事業を含め、大きく前進することになるので、さらに介護相談、訪問看護にも積極的に取り組み、藤沢南部地域の在宅介護の重要な拠点施設として、現在、活躍中である。

さらに細かい沿革を記すと次のとおりになりなす。・・・・・・・・

- 昭和48年9月 社会福祉法人上村鵠生会設立発起人会
- 10月 設立代表者上村安一郎より土地1319.68平方メートル（鵠沼海岸2-6629-2 他2筆）寄付
- 11月 社会福祉事業法第29条第1項の規定にもとづく申請書を厚生省に提出
- 昭和49年1月 社会福祉法人上村鵠生会の法人設立認可
- 2月 同上の法人登記完了
- 4月 基本財産の土地の登記完了
- 7月 特別養護老人ホーム鵠生園竣工
- 8月 同園の設置認可、定員50名、8月26日14名入居し、事業開始
- 11月 鵠生クリニック開設認可
- 12月 同クリニック事業開始
- 昭和50年5月 鵠生園中庭造園工事完成
- 昭和53年12月 老人棟屋上へのランプウェイ完成
- 昭和54年4月 藤沢市よりディサービス事業の要請があり、受諾する
- 7月 一時入所事業開始（1床）
- 8月 鵠生園5周年記念式典
- 昭和55年3月 ディサービス棟竣工（327平方メートル）
- 藤沢市と委託契約を結びディサービス事業開始
- 昭和57年5月 理事長上村安一郎より土地499.83平方メートル（鵠沼海岸2-6631-3）寄付

- 昭和 5 8 年 6 月 高齢者緊急相談事業開始
施設入浴サービス事業開始
- 昭和 5 9 年 4 月 県老人福祉課より湘南地区を対象とした重度痴呆性老人専用棟設置の
要請があり、受諾する
- 8 月 鶴生園 1 0 周年記念式典
- 昭和 6 1 年 3 月 重度痴呆性老人専用棟の増築工事完成
痴呆性老人ベッド 3 0 床、一般障害老人ベッド 2 0 床、一時入所ベッ
ド 7 床となる
- 5 月 昭和天皇陛下賜金拝受
- 昭和 6 2 年 4 月 ディサービス事業を改め、ケアセンター事業を開始、名称をケア
センター鶴生園とする
藤沢市より緊急通報システム事業の要請があり、受諾する
- 6 月 ディサービス事業が藤沢市南部地域を対象とすることになる
- 1 2 月 緊急通報システム事業開始（藤沢市南部地域 3 0 名を対象）
- 昭和 6 3 年 3 月 非常通報装置設置
- 1 2 月 スプリンクラー設備設置
- 平成元年 4 月 緊急通報システム事業 1 0 名増となり、4 0 名を対象とする
- 4 月 在宅入浴サービス事業を受託、開始する
- 8 月 鶴生園 1 5 周年記念式典

さて、藤沢市の 6 5 歳以上の人口は今年 4 月で約 3 万人となり、全人口の約 9 % になるそ
うです。高齢化が進むに従い、寝たきりの方や痴呆性のお年寄りがますます増えることは
確実なのです。したがって、その対策としては、治療とか、介護とかの施設が公的にも、
私的にも設立されることにより、家族の介護では追いつかない実情を援助しなければなら
ないと痛感されます。このような時に、鶴生園では先見の明があると言えましようか、先
駆的にケアサービスに尽力し、既に 1 5 年という歳月をとおして、各種老人医療と高齢者
福祉に営々と実績を挙げてきたわけで、県下にあつて、在宅サービスは鶴生園が皮きりに
なるなどオピニオンリーダーとして注視の的になっています。

鶴沼に住む私達にとって、この先駆的にして先見性のある鶴生園が、高齢者社会の進むこれからの時代に、ますます機能的に充実強化されていくのを期待しつつ、いつかはお世話になる日がくるわけですから、いま園内で余生を楽しく送っておられる方々を温かく見守りつつ、有能な施設として存続するように及ばずながら援助していきたいものです。

あとがき

この記録は、平成元年の12月及び翌2年2月に、藤鶴建設（株）社長の三浦 幹氏にお会いして、取材させて頂いたものです。ご本人は、古いことで記憶に間違いがあるかもしれないが、とお断りがありましたが、あえてお話を聞かせていただきました。

また、後半にかけては、鶴生園の15周年記念に発行された記念冊子「鶴生園」に記載された部分から一部転用させて頂いたものです。

事業内容		開設年月	内 容
1	長期入所	S 49年8 月	定員50床のナーシングホーム（一般特養）
2	短期入所	S 54年7 月	当初は2床であつたがS 61から7床に増床
3	サービス	S 55年3 月	1日25名定員、月から土まで1週間140名利用
4	入浴サービス	S 58年7 月	開設当初は施設浴のみであつたが、平成元年度より移動浴（自宅）も委託される
5	介護相談	S 58年6 月	県の緊急相談事業として、特に痴呆性老人やその家族の相談にのっている
6	緊急通報システム	S 62年4 月	藤沢南部地区の独居又は夫婦世帯を対象に特殊電話を設置、緊急時の対応を行っている
7	訪問看護	S 59年4 月	当園にかかわる在宅の障害老人に対し在宅介護上の相談を受けたり看護指導を行っている
8	クリニック	S 50年4 月	開園当初より保健診療医療が可能であつたため、長期入所者のみでなく、医療を求めている地域老人のためにも開放している

おわり

あゝ昭和

遠藤 隆二

64年で昭和の時代は終わった。天皇が亡くなられたのは1月7日であったから昭和64年は僅か1週間であった。

大正天皇が亡くなられたのは15年12月25日であったから昭和元年も僅か1週間足らずであったわけである。未だ小学4年だった、私にも何か慌たしかったことを覚えている、涙ながらにレシーバーでラジオを聴いていた母親に、天皇陛下が亡くなったのかと尋ねた私は、天皇陛下はおかぐれになったと云うのですよ、とひどく叱られたことを覚えている。大正天皇は御病弱であった、ために皇太子が摂政の宮を暫くやられたから昭和天皇はお若い時から御苦勞も多かったことと思はれる。

大正生れ昭和育ちの我々の世代は色々の事を経験した、関東大震災、満州事変から始まった戦時体制下の教育、そして太平洋戦争への参加、敗戦後のあの惨憺たる有様や、てんやわんやの状態は今思い出しても夢のようである。

昭和天皇は87才の生涯を閉じられたが、その一生は苦難に満ちたものであっただろうと推察する。我々も苦しみを共にした仲間としての親しみすら感じ、御同情に堪えない。葉山の御用邸にも家内と二人で御快癒をを祈り記帳に出掛けたが、寒い日にも拘わらず記帳の列が続いた。

人間若い頃は記憶力が旺盛なものであるが、年をとると記憶力が日まじに減退してゆくのが情けない。追憶の糸をたぐる手だてが欲しくなってきたものである。

平成元年の3月、鶴沼公民館と共催で「鶴沼懐古展」を開催したが、

塩沢さんはじめ、古くから鶴沼に住んでいる多くのご協力で、来場者多くの人々に喜んで貰うことが出来た。よき時代の鶴沼とはこうも違うものかと、鶴沼の移り変わりが懐かしく興味をそそられたことだろう。

さて秋の鶴沼公民館祭りには何をやろうかと頭を悩ませた。年号が平成と変わってみると殊更に大正昭和の頃が懐かしく、写真展に続く何かをやろうと云うことで、民家展をやることになった。丁度いいことに、鶴沼商店街に山春さんこと山田春夫氏なる人がいて、この人はミニチュア民家を作る名人で、これ何とも云ひ様のない味わいのある人である。世の中にはよくそんな人が居るものであるが、どうしてこの人がガラス屋さんを本業としているのかと理解に苦しむような人である。

7月2日川崎市立日本民家園に、語る会の会員が実地勉強見学が行われた、山春さんも同行されたが「日本民家研究誌」専門誌を持っての見学だったが仲々の専門家である、山春さんはもともとは大工さんの出であるそうで、日本家屋に詳しいのにうなずくことが出来た。

ガラス店を訪れた時も、何匹もの猫が出入りするままに任せた仕事場で一心にミニチュアの水車小屋を作っていた。奥さんも亦愉快的な人柄で、猫の面倒と紙人形を作る仕事しかしない人だと山春さんは言っていた。

その山春さんに日本各地の民家の模型25軒、「岩手・曲屋造り。神奈川・民家と宮ヶ瀬湖底に沈む家。山形・かぶと造り。栃木・かわり曲り家。山梨・面破風造り。高山・合掌造り。佐賀・くど造り。鹿児島・ニッ棟造り。日本民家。日本民話の家。寺院。鐘楼」湘南山草会の御協力で「秋草25鉢盆栽2鉢」会長さんは日本各地の民芸傘と「沖縄・中国・香港・ベトナム・ハワイ・計30点」案山子の手配は関根さん、御

所見の宮地さんの製作等の出品であった。10月19日の強い風雨の中を、ススキ狩りに相沢、中村、吉田さん、風邪気味の私は勘弁して貰ったが、鶴沼辺にはもう往年のススキの原もなく、片瀬山の西鎌倉辺や御所見の辺まで探しに行ったそうである。ススキの壁面造りは榊葉さん等御苦労様でした、昔の集落の趣きが立派に出来上がった。

鶴沼公民館祭は10月28、29日の僅か2日間であったが人気は上々で、老若男女小学生迄延べ2,000人以上の人々が見に来てくれた。

茅葺の集落を眺めていると、そこからは知らず知らずのうちに何事かが伝はつて来るような気がする。涙を流して見てくれたお婆さんが何人か居た。「わしらの家はにんな家だったよと」指さした神奈川県の農家であった。「こんな家ほうんと大尻さんの家でこの辺には滅多に無かった」と教えてくれた。お婆さん達の涙は何と想っていたのだろうか。家には人々の暮らしの姿がある、生活があるから愛着がある。列べられた家々に豆電球を灯せば囲炉裡には鍋までかかっている。そこには人々の集りの場があつたろう、時には講も開かれたことだろう。素朴な郷土料理の匂ひがする。お婆さん達の涙を見ただけで私の心は満足した。

鶴沼の地区も戦争の前までは本当に田舎であった、砂地の畑には夏にもなると甘い鶴沼南瓜が実った、桃の畑も多かった、水気の多い畑には里芋がよく出来た、芋の大きな葉が風にゆらいでいたものである。

あれから半年、昭和天皇の一年の喪も過ぎて御大礼も近い、平成の年代に入って世界は急に騒がしくなった。ベルリンの壁は取壊され、東欧諸国の民主化が着々と進んでいる。日米の経済摩擦も大きくなった。平成の時代はおそらく平和だろうが色々の移り変りがある事だろう。私達

も戦争を含めて多くの苦難を乗り越えて生きてきた、少々働き過ぎたようにも思う。これからはゆっくりと世の移り変りと、古い日本の伝統の中に生きて来た自分自身を見つめて行きたい。

山春さんはあれからどんな家を作ったろうか、又見せて貰いに行こうか。山春さん作のお寺の賽銭函にお賽銭が120円が入っていたことも付け加えておこう。

おわり

◎編集後記

昭和97年10月鶴沼公民館祭、道祖神まつりお賽銭	1700円
平成 1年10月鶴沼公民館祭、ふるさと民芸家屋展	120円
平成 1年12月懇親会残金と会員有志	2267円
平成 1年12月福祉協議会に寄附をした。	計4087円

◎会員消息

仁平久秀さん昨年9月ご病氣にて湘南中央病院一時退院されましたが
再発藤沢市民病院に入院され、3月 1日御逝去されました、
当会の役員してご指導を賜りました御冥福をお祈りします。

岩田吉人さん昨年12月東海大学大磯病院入院されましたが、2月3日

お元気で退院され自宅療養をされている。

中村考治さん 1月17日ご病氣にて現在藤沢市市民病院入院中。

です。

寄付者御芳名

平成元年一月一日より十二月末日迄

金一万円也 山本 章嗣様	金五千円也 朝広 裕二様	金一万円也 森井 信吾様	金二万円也 山田友次郎様	金一万円也 橋本 スミ様	金三万円也 鵜沼海岸匿名様	金二万円也 飯泉甚兵衛様	金六千円也 鵜沼海岸匿名様	金百万円也 黒沢 正和様	金五千円也 鈴木 為一様	金三万円也 宮澤 隆子様	金五千円也 三神 敏子様	金三万円也 沼田 武藏様	金五千円也 八木戸金吾様	金五千円也 関根 俊雄様	金一万円也 城間 雪子様	金一万円也 関沢 寛様	金一万円也 須藤 隆子様	金二万三千五百円 鵜沼藤が谷匿名様	金五千円也 菊池 保夫様	金三万円也 西村盛義・文子様	金一万円也 金子 隆様	金五千円也 持田 眞男様	金二万円也 中沢 忠作様	金十万円也 中川 信一様	金五千円也 ノエル鵜沼手芸の会様	金三千円也 後藤 一郎様	金四千八百七十七円也 鵜沼を語る会様	金一万円也 長谷川貞江様	金三千円也 西沢 ふく様	金二万円也 犬塚 宣夫様	金四千百十九円也 宮沢 淑子様	金三千円也 鵜沼海岸匿名様	金五万八千六百六十六円也 鵜沼地区公民館まつり実行委員会様	金九千円也 藤野滋次郎様	金二万円也 ガールスカウト神奈川県第一八団第五八団様
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	----------------------	-----------------	-------------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	---------------------	-----------------	-----------------------	-----------------	-----------------	-----------------	--------------------	------------------	----------------------------------	-----------------	-------------------------------

平成元年度 会費納入一覧表
(敬称略) (団体)

代表 塩沢様 証 No. _____

鵜沼を語る会様

4.087.00

但昭和 年度会費 口分

上記金額正に領収致しました

昭和 年 月 日

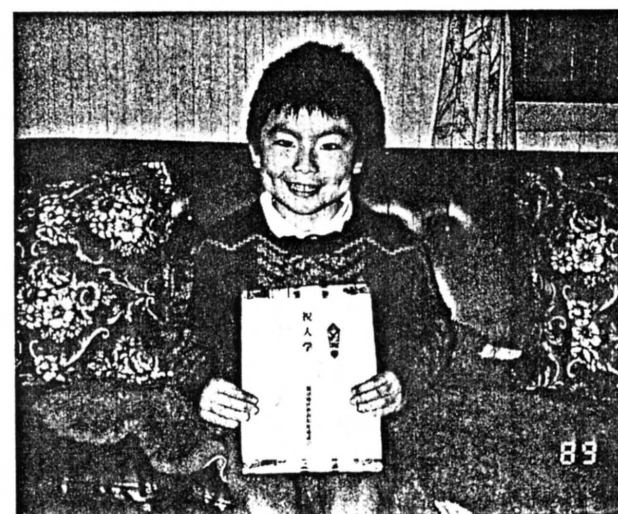
鵜沼地区 社会福祉協議会

協社会鵜沼地区協議会印

扱者印

赤い羽根
年末助けあい

共同募金に御協力ありがとうございました。



うれしいな

おめでとう
一年生

鵜沼地区社会福祉協議会では、小学校新入学児童にお祝いとして、ノート・クレヨン(クレパス)をお贈りしています。

「鵠沼」平成2年3月52号

平成2年 3月13日発行

新年懇親会 田中まさ子

鵠生園物語 吉田 興一

あゝ昭和 遠藤 隆二

発行所 鵠沼公民館

藤沢市鵠沼海岸 2-10-34

電話 33-2001

編集鵠沼を語る会 代表

塩 沢 務

藤沢市鵠沼海岸 3-12-33

電話 36-7876